

第4A（中）分科会 —組織・運営に関する課題—

提案主題 目標協働達成会議を通し、組織的な取り組みをめざして

司会者	九重町立野上小学校	池部 義孝
提言者	玖珠町立玖珠中学校	後藤 久寿
助言者	竹田教育事務所次長兼指導課長	後藤 栄治郎
記録者	玖珠町立森中学校	中村 周市

1 協議の柱

- ・学校目標達成に向けて組織的な取組を教頭としてどう進めるか。

2 協議の実際

(1) コミュニティースクールに関して

- ・学校のみでは解決できない課題に対しての支援者として活用する。課題解決の一つのツールとして効果がある。地域の教育力を活用するツールとしても効果がある。
- ・学校がなくなれば地域がなくなる。そういう意味では、コミュニティースクールは強固である。地域からの信頼も得られるようになる。
- ・学校、家庭、地域が協働しての取り組みは重要なことだ。子どもの姿に表れることにより新たな取り組みの意欲がわく。
- ・保護者の意識と関わりやPTA組織との関連は、今後の課題である。

(2) 目標協働達成会議に関して

- ・会議の精選、課題の明確化等、目標協働達成会議の持ち方の工夫が必要である。
- ・地域の協力なくして、今の教育は困難ではないか。地域をまきこんだ中での学校運営が必要である。
- ・ミドルリーダーの育成が重要なポイントである。職員に役割を持たせることで、参画意識も高まる。自覚させることで行動に変化が表れてくる。

3 指導助言

- ・提言校は、コミュニティースクールとして成果をあげている。コミュニティースクールを実施するか、しないかということよりも、成果をあげている部分（要因）がどこなのかが重要であり、参考となる。
- ・会議をすれば、その準備等を含め、教頭の負担はさらに大きくなるが、「これを利用して、こういういいことがある」というビジョン（ゴールイメージ）が大切である。
- ・「学力が・・・」「体力が・・・」等の目標達成のための手段である。
- ・学校の課題解決のためのシステムであることがポイントである。そのことが地域貢献にもつながる。
- ・実践していることを今後検証していく段階だと思うが、あせる必要はない。できるところから取り組み、改善していけばよいと思う。最終的に大きな目標が達成できればよい。